

上級で学ぶ日本語

三訂版

テーマ別

ワークブック

〔監修〕

松田浩志  
亀田美保

〔著〕

惟任将彦  
咲花美紀

佐藤真紀  
立和名房子

安本博司  
山田勇人



上級で学ぶ日本語  
三訂版

別テーマ

# ワークブック

〔監修〕

松田浩志  
亀田美保

〔著〕

惟任将彦  
咲花美紀

佐藤真紀  
立和名房子

安本博司  
山田勇人

KENKYUSHA



## 目 次

『ワークブック』を使っていたく先生方へ v

CD トラック番号一覧 ix

|        |       |    |
|--------|-------|----|
| 第 1 課  | しる    | 1  |
| 第 2 課  | いたわる  | 4  |
| 第 3 課  | ならう   | 7  |
| 第 4 課  | よみとる  | 12 |
| 第 5 課  | さばく   | 15 |
| 第 6 課  | うやまう  | 20 |
| 第 7 課  | ふせぐ   | 23 |
| 第 8 課  | もてなす  | 28 |
| 第 9 課  | よびかける | 31 |
| 第 10 課 | えらぶ   | 36 |
| 第 11 課 | いかす   | 39 |
| 第 12 課 | つなぐ   | 44 |
| 第 13 課 | たのしむ  | 47 |
| 第 14 課 | きたえる  | 52 |
| 第 15 課 | いきる   | 56 |



# 『ワークブック』を使っただく先生方へ

## I. 改訂の概要

『テーマ別 上級で学ぶ日本語 ワークブック』（以下『ワークブック』）は、大幅に改訂された『テーマ別 上級で学ぶ日本語 三訂版』（以下、『上級』）の出版に合わせて、従来の『ワークブック』を改訂したもので、『上級』との補完関係を明確にした教材です。

大きな改革点は、以下の諸点です。

1. 従来の〈聞いてみよう〉に相当する聞き取り練習は、対話形式の練習を奇数課に、それ以外の形式の練習を偶数課に設け、〈聞きましょう〉とした。
2. 〈読んでみよう〉は〈読んでみましょう〉とし、第3課から奇数課ごとに設けた。
3. 〈表現を磨こう〉〈言葉を増やそう〉は、〈練習しましょう〉とひとつにまとめた。
4. 〈練習しましょう〉に、新たに漢字練習を加えた。
5. 『上級』で扱ったテーマとの関連をより明確な内容の練習にした。

全体の構成と狙いは以下の通りです。

## II. 各セクションの構成とねらい



### 聞きましょう

#### 練習のねらい:

奇数課では対話、偶数課では独話を聞いて情報を聞き取る、いわゆる聴解力を伸ばすのと同時に、対話ではある話題について話し手それぞれの意見の相違点を聞き取ります。また、口語特有の表現や縮約形を理解することも目的としています。独話ではややフォーマルな説明や公の場での話、講演などを聞いて情報を聞き取り、理解します。また、そのために必要な学習スキルとして情報を聞き取り、ノートを取ること（ノートテキング）、ノートを見ながら、文を再構築し、内容をまとめること（ディクトグロス）を練習に取り入れ、これらの学習スキルを高めることを目指します。

#### 練習の構成:

奇数課の対話、偶数課の独話ともに1000字前後の長さになっています。対話を聞いた後は設問Ⅰの選択問題で内容を確認し、設問Ⅱで話し手の立場や考え方の違いをまとめます。そして、設問Ⅲでは対話中の口語的な表現を取り上げ、できるだけ自然なやり取りができるよう、即時応答の練習があります。

独話では内容を推測したり、ノートを取る準備をしたりするために、設問Ⅰで要点を

尋ねています。これは各段落に1問設けてあります。次に、設問Ⅱでノートの内容をもとに要点を文にしてまとめる練習があります。設問Ⅰの質問に対応させ、段落ごとに文完成の形式で要点が示されています。

### 練習の進め方:

#### ・奇数課(対話)の進め方

1. 音声を流す前に、どんな人たちが、どのような状況で、何について話すのか注意して聞くように促し、ノートを取るよう指示をして、音声を聞きます。
2. 音声を聞いた後、引き続き設問Ⅰで内容を確認します。この際、1回の聞き取りで十分に情報が取れない場合は、もう1度聞いても良いでしょう。
3. 口頭で登場人物や状況について確認し、設問Ⅰの答え合わせをしながら、話し手それぞれの主張について確認します。
4. 設問Ⅱに、話し手の意見の違いについて書いてまとめます。

#### ・偶数課(独話)の進め方

1. 設問Ⅰに目を通し、あらかじめ聞く内容について推測します。そして、これらの点を中心にノートを取るよう指示します。
2. 音声の冒頭部分に話し手の情報や内容に関する簡単な紹介がありますので、そこで1度音声を止めて、確認します。
3. ノートを取りながら、音声を聞きます。必要であれば、1回目はただ聞くだけ、2回目はノートを取るなど、学習者の聞き取りの力に合わせて工夫すると良いでしょう。1回の聞き取りで十分に情報が取れない場合は、もう1度聞く、または段落ごとに区切りながら聞くなどしても良いでしょう。音声を聞く際には、設問Ⅱの部分を見せず、書き込みを行わないようにします。
4. ノートを見ながら、設問Ⅱの文完成を行います。答えは内容が合っていれば、聞いた文の通りでなくてもかまいません。時間があれば、聞いて理解した内容をさらに短くまとめる練習をしても良いでしょう。



### 読んでみましょう

#### 練習のねらい:

まとまりのある文を読んで、読むことへの抵抗感をなくし、概要を理解すること、読むスピードを高め、要点を的確にとらえる力を養うこと、各課で学んだ新規学習項目が理解できているかどうかを自己確認し、達成感を持てるようになることを目指す練習です。

内容は、『上級』のテーマを、〈読みましょう〉とは違う側面から扱い、〈読みましょう〉

にある情報をさらに補充するものになっています。

### 練習の構成：

〈読んでみましょう〉本文と問題Ⅰ、Ⅱで構成されています。本文は、当該課の新規学習項目を含む既習の語彙と表現のみで書かれていて、第3課から第7課までは4段落構成で1000字前後、第9課以降は5段落構成で1200字程度としています。

問題Ⅰは内容の理解を確認するための正誤問題で、段落数に合わせ、第7課までは8問、第9課以降は10問になっています。問題Ⅱは要点についての記述問題になっており、段落数に合わせ、第7課までが4問、第9課以降は5問になっています。

### 練習の進め方：

1. 学習者に合わせて、5～7分程度と時間を決めて、時間に余裕がある場合も、内容がつかめるまで何度も読むよう指示します。その際、後の正誤問題は見ないことを徹底します。
2. 全員が読めた時点で、問題Ⅰを行います。その際、本文を見ずに解答するよう指示します。
3. 全員が解答を終えたら、答えをチェックしながら、要点を確認します。必要に応じて、再度本文に目を通して良いでしょう。
4. 最後に、問題Ⅱを行います。必要に応じて、口頭練習をしてから書く練習をすると良いでしょう。



### 練習しましょう

#### 練習のねらい：

新規学習項目を既習項目と組み合わせ、豊富な練習を通して繰り返し使用することによって学習者が、学習項目が身に付いているかどうかを自己確認することを目指します。『上級』で既に学んだ言葉・表現、文法項目を繰り返し使って練習が作られているので、すべての練習問題を通して、『上級』学習項目の総体的な復習をすることも、大きなねらいです。

#### 練習の構成：

大きく分けてふたつの練習から構成されています。Ⅰ. 漢字の練習、Ⅱ. 文完成練習です。Ⅰ. 漢字の練習では、各課の新出漢字の読み方と書き方を練習します。『上級』〈漢字を練習しましょう〉Aに含まれる漢字は、読み書き両方が練習対象となり、Bに含まれる漢字は読み方のみが練習対象となります。

Ⅱの文完成練習には、1. 擬音語・擬態語を中心にした副詞の練習、2. 当該課新規学

習表現の練習、3. 当該課新規学習文法項目と関連練習が含まれています。偶数課に限り、4. として、補助動詞と呼ばれる動詞の復習練習が添えられています。

#### 練習の進め方：

〈練習しましょう〉は、基本的には自宅での使用を想定していますが、課の最後に復習として使用することも可能です。特別な進め方はありませんが、いずれの場合も留意しておくべき点は、例えば、Ⅱの2、3などは、複数の解答を作らせ、練習対象となる表現が応用できる力を付けること、また、偶数課にある4では、ほかにも該当する動詞がないかを考え、補助動詞の役割を理解させることが大切です。